

本市の推移と他都市比較

1. 一人当たり資産額と負債額

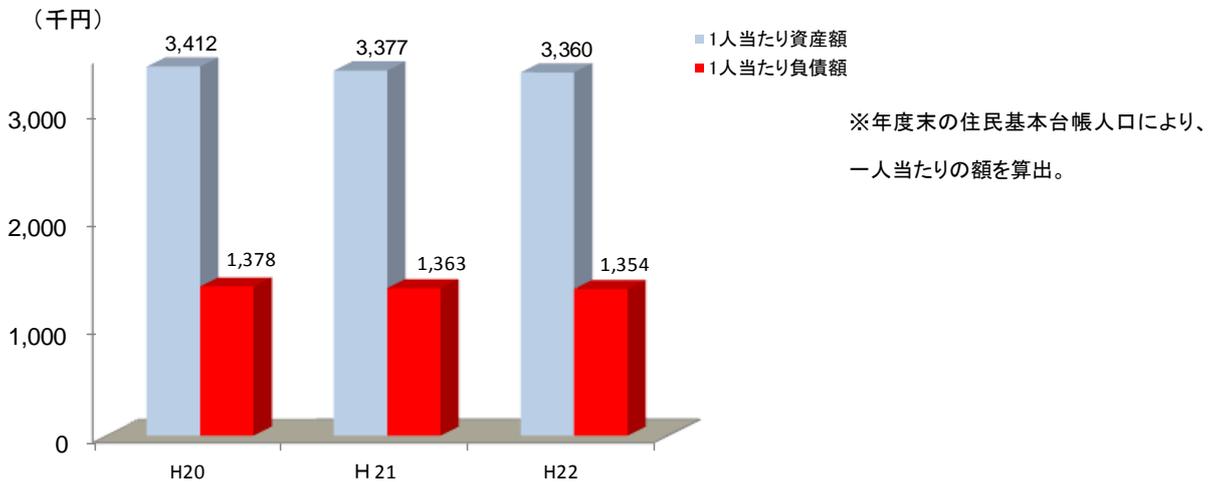
○ 1人当たり資産額

公共事業の縮減により、資産額は減少傾向にあります。しかしながら、他都市との比較（平成 21 年度）では、多くの資産を保有していることも分かります。これは本市が早くから道路などの都市基盤整備に取り組んできたことによるものです。

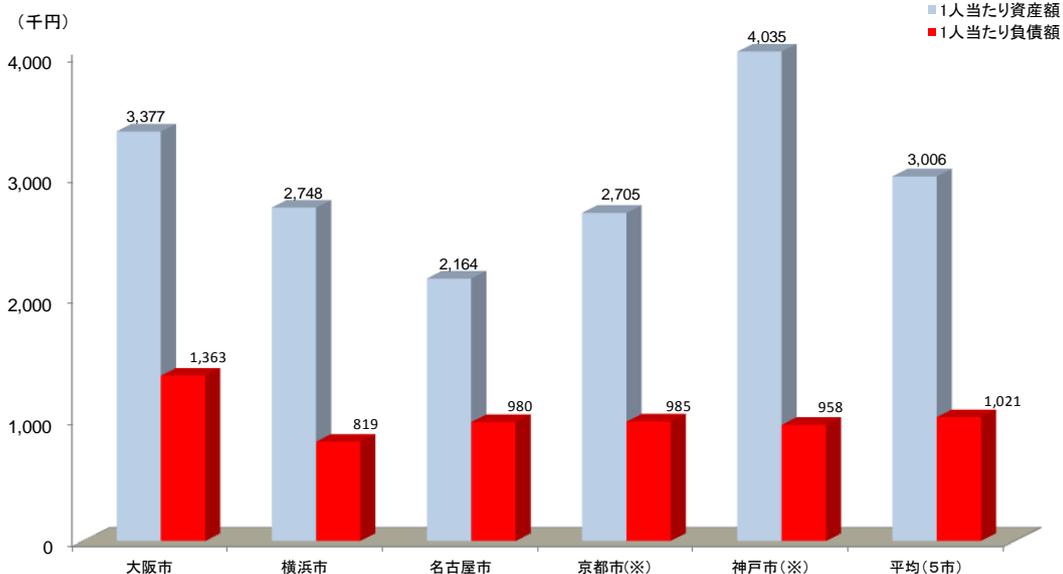
○ 1人当たり負債額

地方債の発行抑制や職員数の削減により、資産額と同様に減少傾向にあります。しかしながら、他都市との比較（平成 21 年度）では、多くの負債（将来世代の負担）を負っていることも分かります。今後も負債額の縮減に努めていく必要があります。

① 3ヶ年推移(平成20～22年度)



② 他都市比較(主要5政令市・平成21年度)



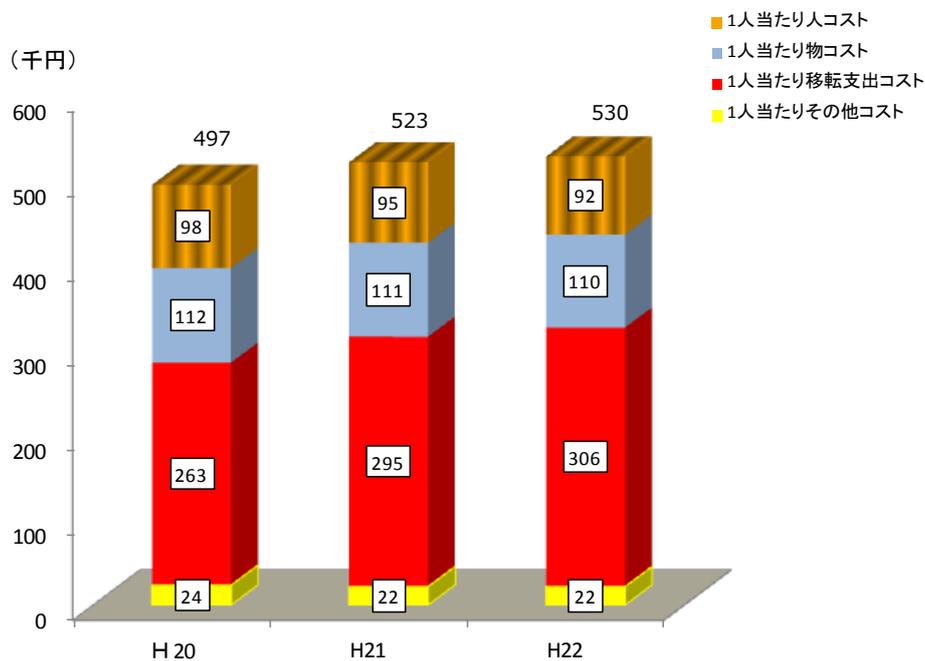
※京都市、神戸市については、有形固定資産のうち、土地を時価評価で計上。

2. 一人当たり経常行政コスト

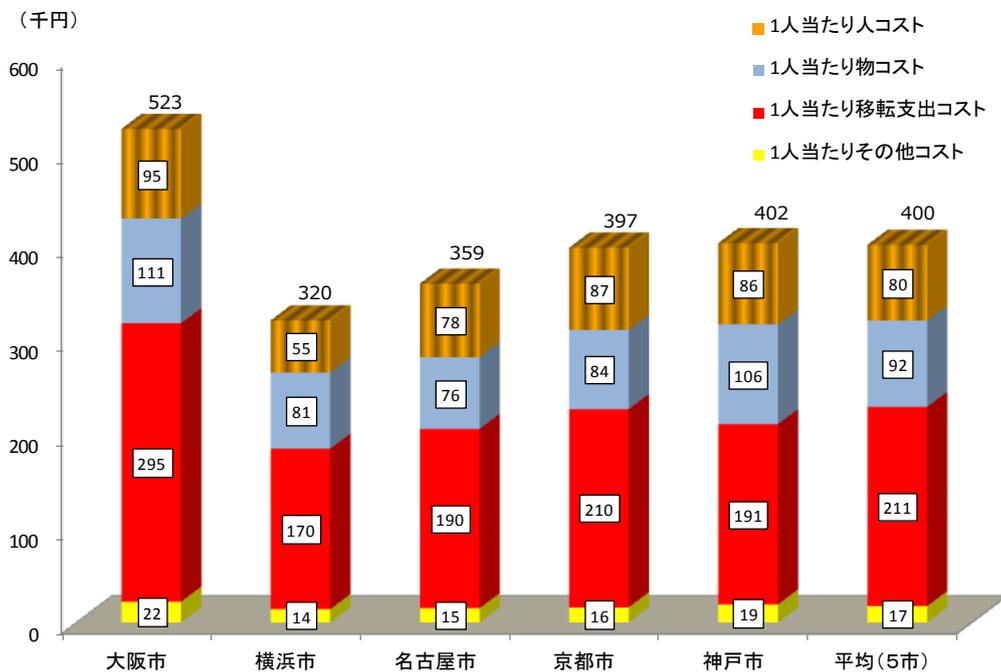
これまでの市政改革の取り組みにより、「人にかかるコスト」及び「物にかかるコスト」は減少していますが、生活保護の増加や、22年度は子ども手当の支給など、「移転支的コスト」は増加しています。

また、他都市との比較(平成21年度)では、本市が一番多くの行政コストを掛けていることが分かり、その主な「移転支的コスト」は、他都市と比べ突出していることも分かります。なお、「人にかかるコスト」及び「物にかかるコスト」も他都市と比べ依然として高いことから、今後も行財政改革に取り組む必要があります。

① 3ヶ年推移(平成20～22年度)



② 他都市比較(主要5政令市・平成21年度)

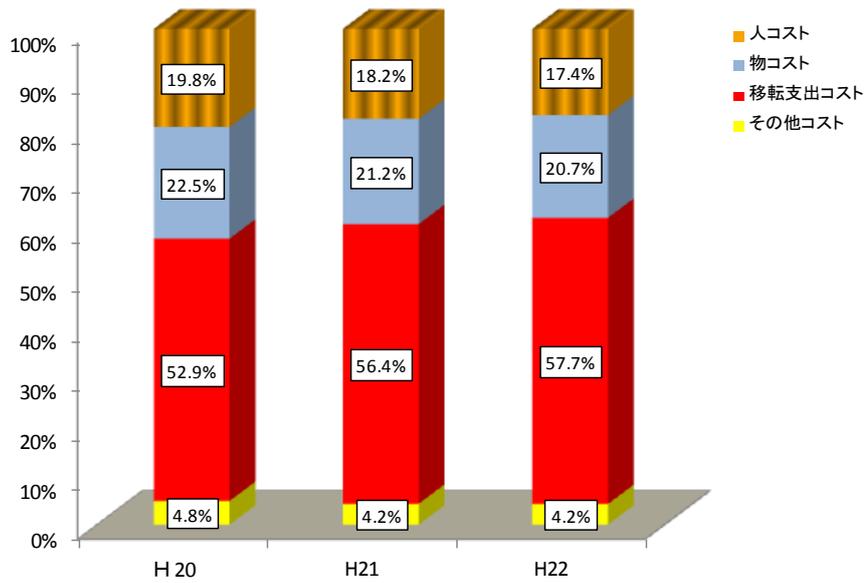


3. 経常行政コストの構成比について

3ヶ年の推移をみると「移転支出的なコスト」の割合が増加する一方、「人にかかるコスト」の割合は年々減少しています。

また、他都市と比較(平成21年度)すると、「移転支出的なコスト」の割合が大きく「人にかかるコスト」は平均以下となっています。

① 3ヶ年推移(平成20～22年度)



② 他都市比較(主要5政令市・平成21年度)

